

資料3

我孫子市小中一貫教育について

我孫子市教育委員会 指導課 小中一貫教育推進担当

1. **小中一貫**教育とは

2. **我孫子市**が目指す小中一貫教育

1. 小中**一貫**教育とは？

カリキュラム（教育課程）は、**教育目標に基づく教育全体計画**のことです。

○小中学校で共有する**目標**がある

各中学校区で設定している
「目指す15歳の姿」

○小中学校を一貫する**カリキュラム**がある

Abi☆小中一貫カリキュラム
各中学校区小中一貫教育グランドデザイン

【小中一貫教育を行う公立学校の分類（制度面）】

	制度化された学校での小中一貫教育			従来の小・中学校による運用上の小中一貫教育
	義務教育学校	小中一貫型小・中学校		
		併設型小・中学校	連携型小・中学校	
設置者	(同一)	同一	異なる	同一又は異なる
修業年限	9年 (前期課程6年 後期課程3年)	小学校6年・中学校3年		
教育課程	・9年間の教育目標設定 ・9年間の系統性・体系性に配慮がなされた教育課程編成			
特例	独自教科設定	○	○	×
	指導内容入替	○	○	×
設置基準	前期課程は小学校設置基準、後期課程は中学校設置基準を準用	小学校には小学校設置基準 中学校には中学校設置基準を適用		
設置・移行手続	市町村の条例	市町村教育委員会の規則等		なし

注：教育課程の特例について、「独自教科設定」は一貫教育に必要な独自教科の設定を意味し、「指導内容入替」は、小・中学校段階間を超えた指導内容の入替・移行を意味する。ここでの○は設置者の判断で可能、×は設置者の判断だけでは不可能（教育課程特例校なら可能）を意味する。

出典：「地方教育行政の多様性・専門性に関する研究 報告書3 市町村の教育施策としての小中一貫教育に関する研究」研究代表者渡邊恵子（国立教育政策研究所 教育施策・評価研究部長）2019（平成31）年3月 ※一部抜粋

我孫子市の 小中一貫教育

- 学習指導要領に準拠した、運用上の小中一貫教育（6・3制）
※小5・6と中1の接続を重視
- 2小1中、または3小1中からなる施設分離型の小中一貫教育
- 「我孫子市小中一貫教育基本方針」のもとに、各中学校区が小中一貫教育グランドデザインを作成し、目指す15歳の姿を共有
- 我孫子市共通カリキュラム「Abi☆小中一貫カリキュラム」のもとに、義務教育9年間を接続

施設分離型の小中一貫教育

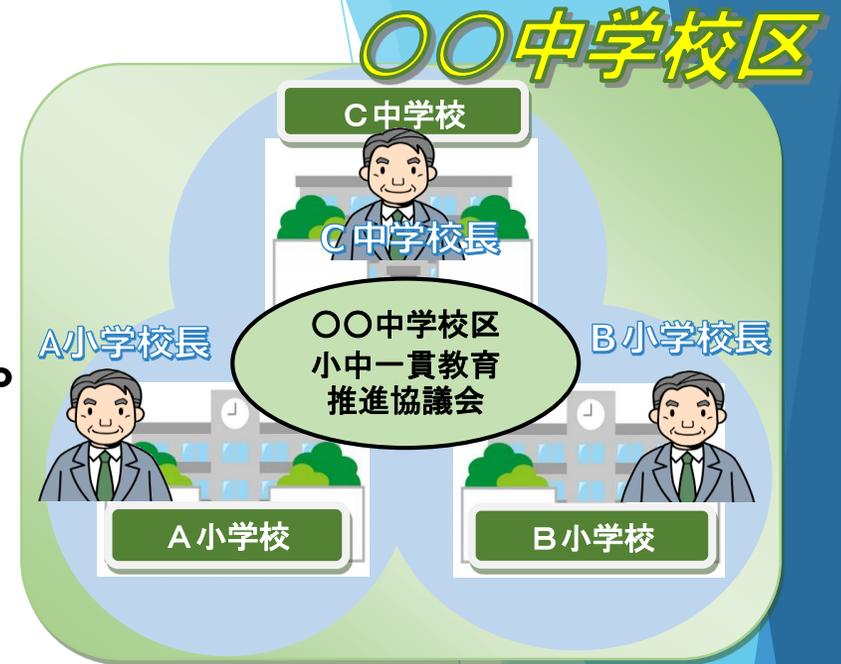
【メリット】

- 各小学校、中学校の学区地域の実情や、各学校の実情に応じてきめ細やかな対応ができる。

- ・発達段階に応じた地域理解
- ・発達段階に応じた学校課題への対応
- ・小学校段階における登下校所用時間の均等化

- 小学校と中学校の学校段階の差が持つ教育効果を生かしやすい。

- ・学校段階の差による成長・気持ちの切り替え
例) 小学校6年生が、最高学年という立場になることにより、自立心が高まる。
例) 生活・学習環境が大きく変わることにより、心機一転中学校生活に臨むことができる。



施設一体型の小中一貫教育

【メリット】

○小学校と中学校の連携・接続が図りやすい

・環境の接続

同一空間において発達段階を踏まえた義務教育9年間を見通した環境づくりが可能

・学習の接続

義務教育9年間の学びが見通しやすくなる。
接続期（小5・6、中1）において、中学校教員による乗り入れ授業や教科担任制等が柔軟に行える。

・人の接続

異学年交流や職員交流、地域人材の共用が行いやすい。

○児童・生徒理解の促進

- ・中1ギャップの軽減や切れ目ない教育支援が行いやすい。
例) 緩やかな生活・学習の変化 教職員の見守りの継続



施設一体型であっても、義務教育学校以外は、小学校と中学校それぞれに校長がおり、小学校6年間、中学校3年間の教育課程に基づいて学習します。

いずれであってても小中一貫教育は可能

我孫子市の場合

中学校区小中一貫教育グランドデザインを
もとに、Abi☆小中一貫カリキュラムや中学
校区のオリジナルカリキュラムによる**義務
教育 9年間の見通しをもった学びを実現。**

例) 布佐カリキュラムの実施

2. 我孫子市が目指す 小中一貫教育

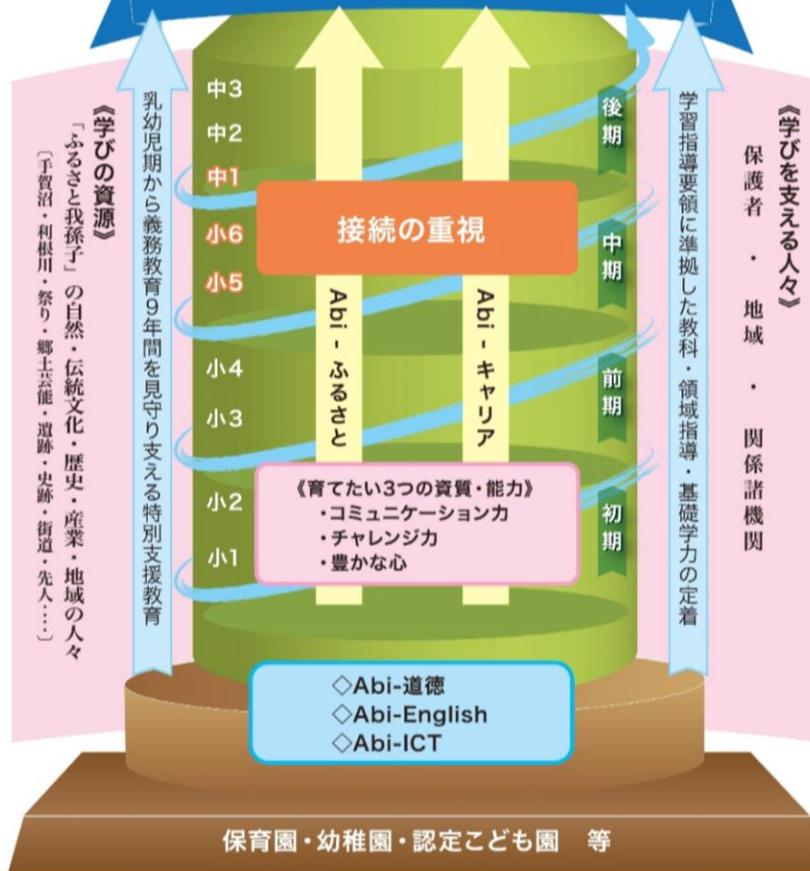
我孫子市が目指す小中一貫教育



「生きる力」の育成

〔我孫子市小中一貫教育が目指す子ども像〕

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども（郷土愛）
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども（未来を拓く力）
- 自分に自信を持ち、自他を大切にすることも（輝く心）



これまでの我孫子市の小中一貫教育の取組（H25～）

平成25年（2013）

小中一貫教育推進委員会の立ち上げ
⇒協議開始・児童生徒の実態調査

我孫子市小中一貫教育基本方針（H26.2）の完成

平成26年（2014）

布佐中学校区を小中一貫教育推進地区に指定

我孫子市小中一貫カリキュラム「Abi☆小中一貫カリキュラム」（H27.3）の完成

平成27年（2015）

我孫子市小中一貫カリキュラム「Abi☆小中一貫カリキュラム」の全校配付

推進地区（布佐中学校区）を中心として、カリキュラムの試験的活用等、市内小中学校全体へと推進を進める。

平成28年（2016）

推進地区（布佐中学校区）において公開研究会の実施

「Abi☆小中一貫カリキュラム」の検証授業を市内各小中学校で開始（4か年計画）

平成30年（2018）

各中学校区小中一貫教育グランドデザインの完成

平成31年・令和元年（2019）

各中学校区において、目指す15歳の姿に向けて、小中一貫教育グランドデザインの運用開始。

全中学校区において小中一貫教育の実施

我孫子市小中一貫教育基本方針の改訂（R2.2）

～今後の予定～

令和3年（2021）

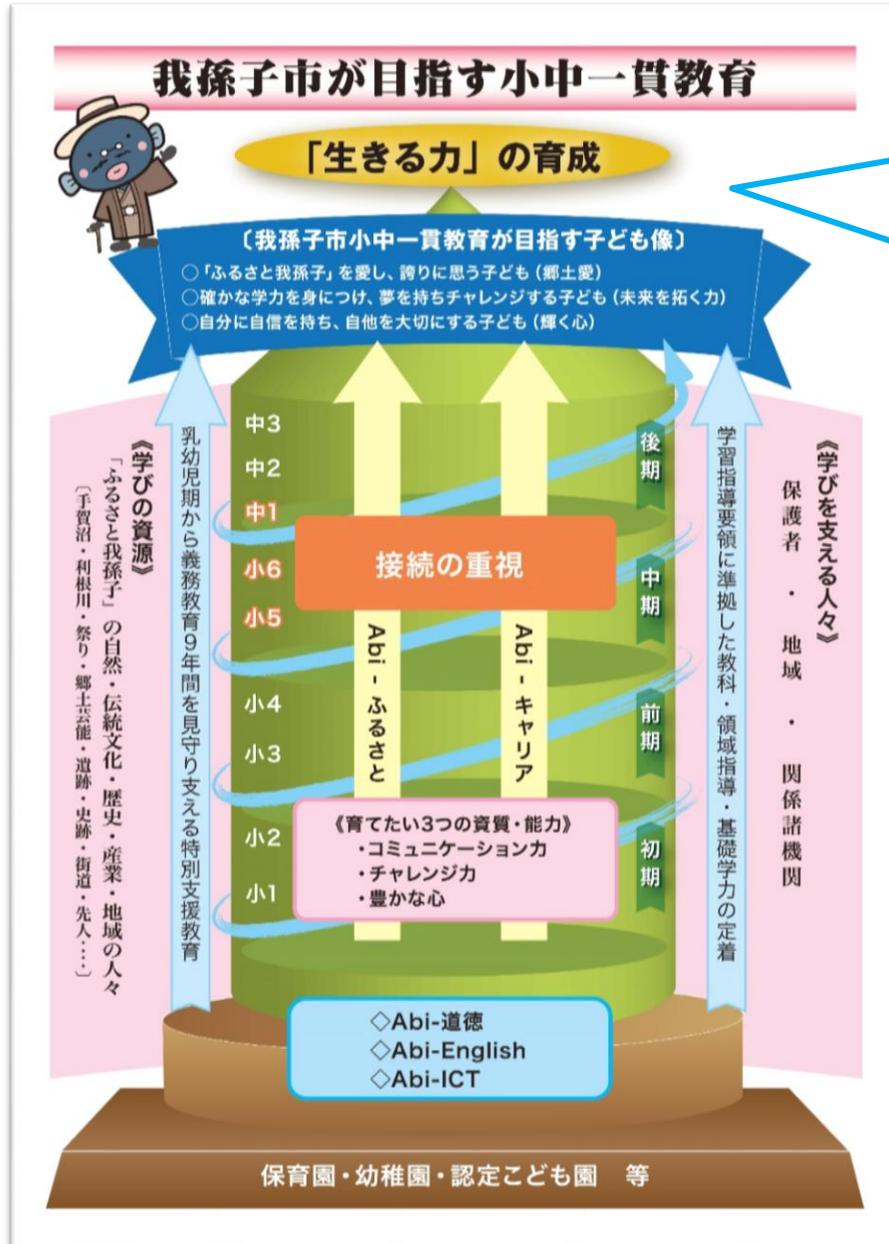
基本方針の改訂を受けて、「Abi☆小中一貫カリキュラム」及び各中学校区小中一貫教育グランドデザインの見直しを行う。

令和4年（2022）

改訂版「Abi☆小中一貫カリキュラム」の実施

各中学校区小中一貫教育グランドデザイン（改正）の運用開始。

我孫子市が目指す小中一貫教育



義務教育9年間の学びを充実させ、「生きる力」の育成することをねらいとしています。

そのために、目標「目指す子ども像」を共有し、その姿に向けて、カリキュラムで9年間をつなぎます。

また、学校と地域が連携し、地域資源を生かして、学びを充実させます。（体験的な学びの充実へ）

我孫子市が目指す小中一貫教育

目指す子ども像

○郷土愛

「ふるさと我孫子」を愛し、
誇りに思う子ども

○未来を拓く力

確かな学力を身につけ、
夢を持ちチャレンジする子ども

○輝く心

自分に自信を持ち、
自他を大切にしている子ども



これまでの**成果**と課題

○郷土愛

「ふるさと我孫子」を愛し、
誇りに思う子ども

- ・ Abi☆小中一貫カリキュラムの実施により我孫子の歴史や我孫子の先人への興味が高まっている。
- ・ 地域や我孫子への理解が深まっている。

○未来を拓く力

確かな学力を身につけ、
夢を持ちチャレンジする子ども

- ・ 中区独自で進めている家庭学習の推進で学力向上を目指している。
(取組の定着)
- ・ 地域人材を活用したキャリア教育の効果を感じている。
(地域との連携の効果)

○輝く心

自分に自信を持ち、
自他を大切にする子ども

- ・ 周囲の人に対してやさしくできる児童生徒が多い。

これまでの成果と課題

○郷土愛

「ふるさと我孫子」を愛し、
誇りに思う子ども

○未来を拓く力

確かな学力を身につけ、
夢を持ちチャレンジする子ども

○輝く心

自分に自信を持ち、
自他を大切にする子ども

我孫子は好きという子は増えたが、
「愛する、誇りに思う」までには至らない。
どうしたらそこまで高まるのか。

「夢を持ち、チャレンジする」姿とは、
具体的にはどんなことだろうか？

自分に自信が持てない児童生徒がいる。

これまでの成果と課題.....他にも

- 児童生徒の、小中、小小交流により、中学校の様子や、ともに進学する仲間の様子を知ることができ、子ども達の安心や、期待感の高まりに繋がっている。（中1ギャップの軽減）
 - 小学校と中学校の教職員がともに学び協議する機会を設けることにより、相互理解が深まっている。
 - 小学校から中学校への引継ぎを丁寧に行うことにより、切れ目のない支援へとつながっている。
-
- 我孫子市の小中一貫教育の「目指す子ども像」や「育成の重点」などが、いまだ十分に理解されていない。（目標の共有が不十分）
 - 交流活動等については、施設分離型の特徴から、実施にあたっては、時間や距離の制約、負担感がある。